

N a R a B r a <ならぶら>覚え書き
習志野ぶらぶら歩き

縁があって、津田沼（習志野市）の町に一年間通うことになった。と言うといささか仰々しいが、京成津田沼駅から徒歩5分ほどの所にある病院とのお付き合いが・・・ということである。入院中に窓から景色を眺め、暇な時に地図を眺めているうちに、カメラをぶら下げてぶらついて見ようと思うようになった。そして通院の都度時間を見つけては歩いて見ることにし、それが今でも続いている。歴史を感じさせるもの、面白いものなど様々な発見が出来て結構楽しむことが出来ている。

<1> 津田沼の三角点

国土地理院の地形図を眺めていたら、習志野市役所の南側にある海拔 37.1m の三角点気がなった。地形図を見ると三角点の記号が建造物のマークと重なっている。（右地図の右下）

もう 40 年位前のことになるかもしれない。町中の意外なところに三角点が残っているのを見つけるのが面白くて調べ歩いたことがあった。

昨年の夏、蒸し暑い日だったように記憶している。病院を出て地形図を片手に歩き始めると、幕張本郷方面に向かって緩やかな上り坂。左側にはまだ新しい臭いが残っている習志野市役所、そして右側にはゴーストタウンのような人気の無いビル。地形図は私をその建物の中に導いてくれた。

ゴーストタウンの入口には「昔は池だった」ような窪みが乾いて貧相な姿をさらしている。その縁に立つ表示を見てわかった。旧習志野市役所庁舎で、道の反対側に新庁舎が出来たことでお払い箱になったらしい。三角点は庁舎の南東の角に記されているので中へ足を運ぶと、「立ち入り禁止」の看板とフェンスが阻んだ。辛うじて隙間から侵入してみたが、使用しなくなった建物の裏はガラクタ置き場と化しており、探索は断念せざるを得なかった。フェンスの隙間から元の場所へ戻ってきたらガードマンが来た。「危険なので立ち入りできません」とのこと。

新庁舎が出来て不要になった旧庁舎を今後どのように活用していくべきか、目下民主的に検討の最中らしい。「新庁舎を作る前に考えておけばいいのに」と言いたいところではあるが、よそ者が口を出すテーマではないので遠慮。

探索を終えて冷静に考えてみると、国土地理院の地形図には「海拔 37.1m 三角点」が記されているが、現在この周辺は海拔 16m 程度。昔はここに海拔 37.1m の小山があったが、市役所庁舎を作る時に削り取られたのかも・・・。国土地理院の地形図が更新されなかつただけの話だと、解りやすいのだが。

（右画像＝市役所旧庁舎<左後方の角に三角点があると思われる>）

<2> 海徳寺

路上の看板を眺めていたら、病院の裏手の路地に日蓮宗の海徳寺という寺があることがわかった。

看板に誘われて路地裏に入ってみると、住宅地の間に銀杏の木が一本突き出て見える。小さくはあるが鉄筋コンクリートの堅牢そうな寺は比較的新しい寺であることがわかった。

昭和 7 年山梨県身延町の伊藤海徳上人と津田沼生まれの伊藤ちせ法尼がこの地に七面堂を創建したが始まりで、昭和 27 年に海徳寺と改称。

寺の前の道に出ると、精進落しを促すかのように四軒の飲み屋が並んでいる。店の名前は「ゆずの花」「司」「加奈」「ドリーム」。どの店も営業しては居なかつたし、住宅地のど真ん中で、どこことなくしっくりしない景色のように感じた。

*海徳寺はここ <https://yahoo.jp/jRLy84>



<3> 久々田（くぐた）公園

海徳寺を出て、四軒の飲み屋の前を通り過ぎると左手に「久々田公園」の看板が待ち構えていた。看板のある路地を奥へ進むと、幅 50m奥行き 120mはありそうな広々とした草原が広がっていた。

その昔、谷津村・久々田村・鷺沼村・藤崎村・大久保新田が合併した時に、中核となった三村のそれぞれの名前から一文字ずつ出し合って「津田沼村」が誕生した。その後、谷津・鷺沼・藤崎・大久保は現在でも習志野市の町の名前として残っているが、久々田だけは残っていない。

この公園の名前が変わることがあれば、久々田は世の中から消滅してしまう。名付けて「絶滅危惧地名」。

*久々田公園はここ <https://yahoo.jp/m0BET7>

<4> ハミングロード

病院の角の交差点を渡ったところ（市役所旧庁舎の手前）に「ハミングロード」という表示板があった。地図で調べてみると「菊田遊歩道」と書いてある。

ある通院の日、余った時間を利用して表示板の先へ入ってみた。旧庁舎脇を通って、木陰を歩ける道が通っていて鷺沼城跡公園に繋がっている。左手に木陰、右手に住宅地という状態が長く続き、真夏の歩きには日陰はありがたい。さらに気になって細かく調べてみたら・・・

戦前、鉄道連隊が演習用に使用していた軍用鉄道の軌道敷跡を、昭和 43 年に習志野市が国から借り受けて「自転車・歩行者専用道路」として整備して「ハミングロード」と名付けた。北部は八千代市・千葉市との境界域で、南端は東京湾に至るまで、全体で 11.67Kmの緑道になっているとわかった。北側から「マラソン道路」「サイクリング道路」「鷺沼台遊歩道」「鷺沼遊歩道」「菊田遊歩道」「袖ヶ浦遊歩道」「秋津一号緑道」「茜浜緑道」と区間毎に名前が付いているとのことだった。

<5> 鷺沼城跡

下総台地の末端、久々田村と鷺沼村の谷津田に挟まれた八剣台（やつるぎだい）と言う台地の上に鷺沼城があった。正応年間（1200 年代の終わり頃）に市川城主の里見氏と鷺沼源太光義が北条氏康と戦って敗れたことが城跡の碑文に記されている。城の歴史の詳細は明らかではないらしいが、鷺沼氏に関するいくつかの情報を合せると、築城時期は平安時代に遡る可能性もあるらしい。

海拔 18mほどの鷺沼城跡公園内には古墳群もあり、またこの他にも下総台地の末端には古墳がいくつかあり、古代人の営みがあった土地であることは計り知ることができる。

*鷺沼城跡公園はここ <https://yahoo.jp/ROx9eM>

<6> とんかつ 寿々本（すずもと）

鷺沼城跡公園の麓、菊田遊歩道の西側を走る道が入院中の 6F の病室からよく見えた。お昼頃になると勤め人らしい群れがいくつもいくつも、この道を通っているのが見えた。

群れの一部は中華料理屋とおぼしき店に入り、残りの群れはその先の角を左に曲がって姿を消した。

「この道になにがあるのだろうか？」退院後にすぐに思い出して、歩行訓練を兼ねて行ってみた。

まずは中華料理屋へ行って見た。現代風の中華料理屋で味は悪くはなかったが、あまり好きな雰囲気のお店ではなかった。道の反対側にはフレンチやイタリアンの小さな店がいくつかあり、住宅街の外れにしては意外な雰囲気の道だった。

中華料理屋の先へ歩を進めてみたら、病室から見た時に人の流れが消えた角に「とんかつ寿々本」と看板が立っていて、広い駐車場の奥に和風の店が建っていた。とんかつの専門店で、サラリーマンらしきグループが席を埋めており、カウンターには単身の客も何人かいて、静かな店内に「とんかつ屋らしい香り」が心地よく漂っていた。とんかつ好きな私は、定石通りロースカツを注文した。

「初めての店でとんかつを食べる時はロースカツを食べろ」が定石、これが美味ければ他のメニューも美味いはず。結果、お店の雰囲気も、とんかつの味も上品でさっぱりしていて満足。この後も何度か通った。

*とんかつ 寿々本はここ <https://yahoo.jp/UetoOWp>

<7> 東漸寺（とうぜんじ）

京成津田沼駅から東京湾（袖ヶ浦団地）に向かうバス道路を進むとすぐに西側に厳めしい門構えの寺がある。商店街から石段を 10 段ほど上がると立派な山門が建ち、これを潜り抜けると本堂が待ち構えて

いる。

正式な名称は、真言宗豊山派龍寶山摩尼珠院東漸寺。船橋の西福寺の末寺で創建年次は不明らしいが、室町時代には存在していたと考えられている。本尊は延命地藏菩薩で、習志野七福神のひとつに数えられている福祿寿の御堂がある。鐘楼もあり、墓地中央にある無縁仏の墓石を積み上げた石塔には味わいがある。

*東漸寺はここ <https://yahoo.jp/S4BnRh>

<8> 菊田神社と菊田公園

病院の北側、京成本線の踏切を渡り、千葉線の線路を潜り抜けると、JRの線路に沿って豊かな樹木の膨らみが目に入ってくる。菊田神社と菊田水鳥公園。

菊田神社は、西暦 800 年代（平安時代）に久々田大明神として創建された。この辺りは、下総台地の先端の入江が入り組んだ岸辺で、公園内の池はその名残ではないかと言われている。産土神として崇められ、縁結び・厄除け・安産・商売繁盛などなど生活と密着した存在だったようだ。

1180 年（治承 4 年）に流罪になった藤原師経がこの地に流れ着いたという伝承もある。

宝暦年間（1700 年代）に菊田大明神と改称されたようだが、その経緯はわからなかった。恐らく久々田の転訛の末が菊田なのかもしれない。今や習志野市に菊田という町の名は存在せず、久々田と同様に絶滅危惧地名のようだ。

*菊田神社はここ <https://yahoo.jp/EbPqjz>

<9> タケちゃん

京成津田沼駅の隣に建つサンロードという雑居ビルの三階に食堂・喫茶店・パン屋などが何軒かある。一番奥に「タケちゃん」という変った名前の中華料理屋があるので入ってみた。やや照明が暗いのが難点ではあるが、どことなく「場末にある美味しい中華屋」を思わせる雰囲気は決め手だった。

親子か兄弟かを思わせる男三人が店を動かしていた。

「タンメンとチャーハンが美味しい店は他のメニューも美味しい筈」という私の持論に従って、まずはタンメンを注文してみた。熱い鉄鍋の中で手際よく炒められた野菜が、歯ごたえと味とで迫ってくるし、スープにもその味が現れている満足なタンメンだった。そして、この店の虜になった。



チャーハンを試し、餃子も試したが、いずれも満足出来る内容だった。特に、口に入れると膨らみが静かに融けて肉の汁を広げていく餃子は絶品。冷凍品を買って帰り、家で焼いて食べたこともある。

近くで働くサラリーマンや駅員ばかりでなく、老人仲間同士や老夫婦のお客さんもいる。日替りの定食も好評のようだし、晩飯用に持ち帰りとして注文する一人暮らしの老人も多い。店の人とお客さんの会話内容を聞いていると、近所のお年寄りの常連客が多いようだった。

タンメンは 10 ヶ月の通院期間中に、何度食べたことか。

<10> 昔の海岸線

東京湾に面した町は海岸線から数えると、「茜浜」「芝園」、陸に入っていくと次は「秋津」と「香澄」、その次は「袖ヶ浦」、その次に千葉街道（国道 14 号線）が走る。ここまでは海拔 2m~4m だが、国道を渡るとにわかには高度を増して海拔 10m を越えるようになる。この国道が昔の海岸線で、昭和 39 年に降に埋立てが進み住宅地等が広がった。埋め立てる前は海岸段丘の上から海を見下ろすことができる景色だったようだ。

京成津田沼駅を起点として、適当な道を選んで東京湾に向かって歩くと地形の変化がわかって面白い。裏通りに入ると、思いがけず古い家や立派な家に出会うことがある。また寺社や小さな祠がこの段丘の線に沿うように存在し、海で糧を得て暮らしを立てていた人も多かった時代を感じさせる。20 年位前に幕張や検見川方面を歩いて見たら、海岸線に建っていたと思しき造りの家がいくつか見られたものだが、今ではどうだろうか。

段丘の先端に立って海の方角を見やると、「よくぞここまで埋め立てたものだ」と驚くばかり。

<11> 根神社（ねじんじゃ）

京成本線と千葉線との間の住宅地を歩いていたら、道端の掲示板に「八剣台自治会」と書いてあった。

掲示されている情報を覗いて見たら「八劔（やつるぎ）神社」の祭りの事を書いた紙が貼ってある。

「八劔」という名前の響きが頭から離れなくなり、家に帰ってから調べてみた。八劔台自治会に住む友人からも情報が得られ、神社の場所もわかった。どうやら下総台地の末端に入り組む舌のような台地を八劔台と言ったらしい。

神社は、通院している病院から幕張本郷方面へ向かう道を辿れば行けそうだとわかり、診察日に合わせて行って見ることにした。ところが、当日地図を持参するのを忘れてしまったので、頭に入っている地図情報を元に歩くことになった。

病院の前の「市役所前交差点」を南西へ一直線、鷺沼小学校の先を右折すべきところを、記憶はあてにならないもので、誤って小学校の手前を右折してしまった。起伏がある住宅地に入ってしまったと困惑していると、門口を掃除している婦人を見つけたので尋ねて見た。「八劔神社はまだずーと先ですよ」と言って、見通しのきく場所に移動して遠くの木立を指さした。そして、曲りくねった道ばかりの土地なので、ここからの道順を口で説明するのは難しいと言った後で、「八劔神社へ行ってみたいのなら、すぐそばにある根神社へ行ってみたらいかがですか。八劔神社の兄弟社ですから」と言って坂道の頂上方面を指さして歩き始めた。

根神社は、段丘地の先端のさらに一段高いところにあった。鷺沼古墳群のひとつである山王祠古墳に鎮座する神社で、創建時期は不詳とのことだが、種々の情報から考えると平安時代ではないかと言われている。樹木の間から住宅地の屋根や、幕張新都心の高層ビルが見えるし、昔の地形であれば足元の崖下は海だったはずだ。近所の人達が毎日箒目を入れていると思われる清浄な境内に、そーっと足跡を残してきた。八劔神社へは辿り着かなかったが、代わりに良いものを見ることができた。

角を曲がると真言宗豊山派の慈眼寺（じげんじ）があったので、ついでに覗いてから帰った。

*根神社はここ <https://yahoo.jp/3aZEbf>

<12> 八劔神社（やつるぎじんじゃ）

地形図等を調べた結果、幕張本郷駅からの方がわかりやすいように感じたので、作戦変更。

4月末にもかかわらず曇天で寒々しい日の午後、地図と磁石を持ってスタート。海拔16mの幕張本郷駅から京葉道路の幕張ICをめざして南西へ。「阿武松部屋」の看板が建つ地点が旧海岸線への下降点。段丘を下ると幕張ICのシェルターの脇は海拔3.6m。

しばらくは国道を東京方面へ進む。右手に絶壁が続き、今歩いているところが昔は海の中だったことを思い浮かべると不思議な気分になる。某ラーメンチェーン店の脇で右に曲がり、緩やかに段丘の上へ登って行く。いくつかの角を曲がりながらも右はニンジン畑、左は新興住宅地という状態が続き。最高点まで上がると海拔15m、東西も南北も1Kmはありそうな広々とした農地で、まるで異次元の世界に飛び込んだような。

西に進路を取ると行く手にこんもりとした林が見えてきた。右手に林を見ながらやや下ると八劔神社の標石と石段が待っていてくれた。20段ほどの石段を上って鳥居を潜ると、本殿に続く一直線の敷石、周囲は数分前に掃いたばかりの箒の目が鮮やか。

根神社（前述）の末社で、創建時期は江戸時代前期ではないかと言われており、祭神は日本武尊。毎年3月上旬に「劔の祭り」があるとのこと。天狗の面をかぶり御櫛を持った氏子を先頭に、身を清めて白装束に身を包んだ、8人の若者が、劔を模した長い棒を持って根神社から八劔神社まで家々を巡って厄払いをして練り歩く。（右写真：東京湾観光情報局 web より借用）



神社の南側の段丘の縁に円形の小山があり、小さな無名の祠が建っていたが、ここからはかなり遠くまで見わたすことができるので、昔は八劔神社の敷地だったような気がする。この二つの神社を一体と考えると、前円後円の墳墓にも見えるのだが……。

*八劔神社はここ <https://yahoo.jp/sXG2PA>